

成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成 (enPiT)

enPiT-Pro 選定状況

(1) 選定状況

申請件数：11件、選定件数：5件

(2) 選定事業一覧

注) 取組名称については仮称であり、今後、変更する可能性がある。

大学名	◎名古屋大学、静岡大学、広島大学、愛媛大学、南山大学 (計5校の共同申請、◎は申請代表校)
取組名称 (仮称)	成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)
取組概要	<p>本事業では、組込み技術者(社会人)の学び直しを行う大学院の実践教育ネットワークを構築する。</p> <p>組込み産業の成長領域が新しい技術を必要とする自動車とIoTに集中しているため、技術者は、学び直しを行う必要に迫られている。本プログラムで「車載組込みコース」と「IoT組込みコース」を大学に整備し、社会の要請に応える。</p> <p>本プログラムでは基盤技術と先端技術を実践力として学び直し、企業の開発現場で活躍し得る技術者の育成の取り組み。そのために、プログラムに参加する各大学の専門性を大学間で共有する教育ネットワークを構築して多様な技術を包含し、さらに演習や開発現場への技術適用の指導などを含む実践力を育成する教育内容とする。</p> <p>「働き方改革」で労働時間が減少する中、本プログラムでは「学び方改革」として社会人が大学で学び直す仕組みの構築に取り組む。平日と夜間と土曜日に開講することや、講義配信により地域を越えての科目履修を可能にするなど、社会人の受け入れ拡大を目指す大学院改革にも取り組む。</p>

大学名	◎北九州市立大学、九州工業大学、熊本大学、宮崎大学、広島市立大学 (計5校の共同申請、◎は申請代表校)
取組名称 (仮称)	地域産業の競争力強化を図る人工知能とロボット技術を駆使したIoT技術の社会実装を推進する実践的人材育成コースの開発・実施
取組概要	<p>第4次産業革命の世界的な潮流のなかで、九州・中国地域には、長年模索してきた新しい基幹産業への展開を実現するチャンスがある。この実現には、すでに社会で働く多様な人が、新しい技術革新に順応し、成長していくことが必要である。そこで、地域の特色ある産業を対象として、幅広い分野を大学連携で補完し合い、最新の人工知能とロボット技術の社会実装まで踏み込んだ、社会人向けの高度人材育成プログラムを開発し、場所と時間の制約を緩和する工夫のもとで実施することを目指す。具体的には、北九州学術研究都市の連携大学院の仕組みを連携大学に展開し、実践的な教育プログラムを短期に実現する。また本取組は、単なる人材育成に留まらず、学び直しのための大学院入学や企業共同研究、新規事業立ち上げ、地域社会の活性化、などを包括的に支援する仕組みを提供する。さらに、教育プログラムの教育の質、継続性、波及効果を、産官学で多角的に評価する体制を構築する。</p>

大学名	◎東洋大学、東京大学、横浜国立大学、名古屋大学、名城大学 (計5校の共同申請、◎は申請代表校)
取組名称 (仮称)	ICT ベースの社会形成のための文理融合の ICT 教育
取組概要	<p>本事業は、産業界を担う労働力に ICT 技術、特に IoT の発達に伴う多くの高度な課題を解決する技術（超軽量組込み、ビッグデータ解析、アクセスコントロール、人工知能など）を短期に教育するための社会人再教育コースを提供する。このコースは、MOOCs を積極的に活用し、時間制約の多い社会人や、学び直しの機会の少ない地方の技術者に対して学習の機会を与える。本事業では、大学、研究機関、学術団体、ベンダー団体、ユーザ団体が共同で、カリキュラムと教材の開発・公開流布、講師人材の育成を行う。産業界の要望を取り入れたカリキュラムと教材を、長年にわたり多数のトレーニングセミナーを提供してきた NPO トロンフォーラムの知見を元に作成し、この中では産学協同の課題解決型学習も実施する。カリキュラムと教材の公開流布の促進は学術団体、ベンダー団体が開くイベント、出版する雑誌を通じて行う。このような産業界と連携した再教育体制を構築することで、日本の産業振興、地方経済の発展につなげることを目標とする。</p>

大学名	◎早稲田大学、茨城大学、群馬大学、東京学芸大学、東京工業大学、大阪大学、九州大学、北陸先端科学技術大学院大学、奈良先端科学技術大学院大学、工学院大学、東京工科大学、東洋大学、鶴見大学、情報・システム研究機構（国立情報学研究所） (計14機関の共同申請、◎は申請代表校)
取組名称 (仮称)	スマートシステム&サービス技術の産学連携イノベティブ人材育成
取組概要	<p>I o T ・クラウド、ビッグデータ、人工知能の各技術を活用しスマートシステム&サービスを開発運用し、領域を超えた価値創造をグローバルにリード可能な人材を育成するため、大学が得意な理論と企業の実践・豊富なケーススタディを用いた実践的教育を、参照モデルにより整理しビジネスからセンサまで全領域の体系的学びを実現する。</p> <p>また、共通例題の利用、システム&デザイン思考科目、プロジェクトベース学習、実問題を持ち込みマンツーマン指導で制作・研究する修了制作を通じ、特定領域を深めつつ技術群を組み合わせて価値を創造する実践力を養成する。</p> <p>さらに留学生と混ぜた実習や海外 P B L を通じ多様性の理解と国際性を促進する。科目あたり 1 2 時間に抑え多数の科目群を柔軟に組み合わせ可能とし、座学部分をオンライン提供し学習の便を図る。</p> <p>これらを 1 4 大学・研究所と 1 6 企業・業界団体による大規模全国ネットワークにより実施し実践的教育を全国展開する。</p>

大学名	◎情報セキュリティ大学院大学、東北大学、大阪大学、和歌山大学、九州大学、長崎県立大学、慶應義塾大学（計7校の共同申請、◎は申請代表校）
取組名称 (仮称)	企業・官公庁等のIT実務、OT実務、設計・製造実務における情報セキュリティに関わるプロ人材育成コースの開発・実施
取組概要	<p>情報セキュリティ大学院大学が連携大学院6校と文部科学省「情報セキュリティ人材育成に関する調査研究」で提唱されたモデル・コア・カリキュラムに基づき、社会人の学び直しを支援する高等教育の体制を整え、全産業分野の実務現場でリーダーを担う情報セキュリティ人材を育成する。履修証明/BP認定も可能な120時間超の教育を実施するメインコースを主軸に、最新・専門的な演習・講義だけを抜粋したクイックコースを加えた二種類のコースを提供する。全国に会員企業を有する日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）、サイバーリスク情報センター（CRIC）との連携、および共同申請校が地域の団体/官庁/企業と連携して産業ニーズに即したコース開発と受講生の募集を行う。コース修了者には履修証明の授与を検討することに加えて、連携大学で統一されたProSec-X(Xは実務領域の名称)認定証を授与する。人材スキルマップを活用して、実務領域に求められる知識をコースに反映する仕組みや、e-Learning(JMOOC/gacco等)を開発して事前学習の環境を整える。</p>